

# 職場・新常態

非破壊検査を手がけるアイベック(富山市、東出悦子社長)は社員が固有の机を持たず、自由に席を決めるフリーアドレス制を採用している。2019年12月に本社を移転したのを機に導入したが、コロナ禍では、この制度が功を奏した。

長机や円テーブルが並ぶオフィス。社員は自分のロッカーから業務に用いるパソコンなどの仕事道具をまとめたモバイルバッグを取り出し、日ごとに違う席に座って仕事を始める。仕事が終われば道具をモバイルバッグに入れてロッカーに戻す。モバイルパソコンを社員に貸与し、ペーパーレス化も併せて推進することで「どこでも仕事ができる体制になった」(東出社長)。

もともとは、接する機会が少ない他部署の社員間の交流を増やすために導入したが、間もなくしてコロナ禍に見舞われると別の効果も発揮した。モバイルバッグを家に持ち帰れば、そのまま業務ができるため、テレワークにもすんなりと移行できた。東出社長は「感染症対策だけでなく、災害で出勤が難しくなるような事態にも強い制度だとわかった」とその利点を強調する。

同社では、こうした従来の勤務形態を変える仕組みを次々と取り入れている。例えば21年から始めた「スマー

## 場所選ばない勤務体系構築

### アイベック

フリーアドレス制を採用したオフィス。社員はモバイルバッグを持って好きな席で仕事をする(アイベック提供)



トムープ」。社員が出勤をせずに客先に直行したり、客先から直接帰宅したりする際に手当を付ける。社員が余分に移動をする手間と時間外労働を減らすことで「社員の負担が楽になり、移動に伴う二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量も削減できる。国連の持続可能な開発目標(SDGs)の活動にもつながる」(同)。場所を選ばず仕事ができる環境作りや余分な通勤をなくすこれらの施策は、感染症に強い新常態の勤務体系を構築する上で、示唆に富む。

(富山支局長・江刈内雅史)